

科目番号	51007	分類	履修者	高度実践看護コース	学年		
科目名	臨床薬理学特論 (Clinical Pharmacology)				1		
					配当セクター		
					前期		
担当者	草間朋子 他8名	区分	必修	単位	2	時間数	30
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連	
【概要】 高度実践看護師として診断に基づく薬物療法を安全に、かつ、効果的に進められるための知識を修得するために、薬物動態の基礎を理解する。さらに、クリティカル領域で遭遇する頻度の高い事例についての薬物療法の必要性を確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因について理解し、安全な治療が進められるようにする。 【目標】 1. 人体に対する薬物動態を理解する。 2. クリティカル領域で用いる薬物療法と薬物と生体との反応機序について理解する。 3. 治療のための安全な処方計画が立案できるための知識を理解する。						○	1. 患者・患者家族のニーズに自律的に対応できる実践能力
							2. 患者の擁護者として活動できる倫理的意識決定能力
							3. 看護・看護学の発展・進化に寄与し社会・時代のニーズに対応した創造的な研究・開発能力
						○	4. 多職種と連携・協働して行われるチーム医療の中で看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力
授 業 計 画							
回	内 容						担当教員
第1～6回	<薬物動態の理論と演習> I. 薬物動態の理解 1) 薬物の体内動態-1: 吸収、体内分布 2) 薬物の体内動態-2: 代謝、排泄 3) 生体内の情報伝達システム: 薬物受容体 4) 薬物の体内動態に影響を与える要因 5) 薬物速度論 6) 薬理遺伝学 7) 発達段階と薬物動態: 胎児、新生児・乳児、幼児・小児、高齢者 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む 8) 病態時における薬物動態 腎疾患、肝疾患とクリアランスなど 9) 薬物の相互作用(薬と食品の相互作用を含む)						草間 他8名
第7回							
第8～9回	<主要薬物の安全管理と処方の理論と演習> II. 薬物の安全管理と処方(薬事法を含む) 1) 薬物の適用法とその処方 2) 看護業務と薬事法						
第10～15回	<主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習> <主要薬物の相互作用の理論と演習> III. クリティカル領域における疾病に対して用いられる薬物の理解 1) 呼吸器系作用薬 2) 循環器系作用薬(血液含む) 3) 中枢神経、自律神経系作用薬 4) 消化器系作用薬 5) 化学療法薬 6) 抗菌薬の使い方						
事前・事後学習	事前学習: 当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習: 授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間(学生便覧参照)を参考に取り組むこと。						
評価の方法	第1～6回については課題レポート、他は筆記試験により評価する。フィードバックは適宜行う。						
参考図書・資料等	◎1) 薬と疾病ⅠA薬の効くプロセス(1) 薬理 第2版(スタンダード薬学シリーズ) 日本薬学会 ◎2) 薬と疾病ⅠB薬の効くプロセス(2) 薬剤 第2版(スタンダード薬学シリーズ) 日本薬学会 ◎3) 薬と疾病Ⅱ薬物治療(1) 第2版(スタンダード薬学シリーズ) 日本薬学会 ◎4) 薬と疾病Ⅲ薬物治療(2) および薬物治療に役立つ情報第2版(スタンダード薬学シリーズ) 日本薬学会 ◎は授業の必修図書ですので、購入していただきます。						
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。						